

## 第4回気仙沼市東日本大震災遺構検討会議について（開催報告）

### 1 開催概要

日 時：平成27年2月6日（金） 午後3時～午後5時10分

場 所：気仙沼市役所 ワンテン庁舎大ホール

出席委員：10名（委員12名中）

### 2 説明内容

<災害遺構視察と前回協議事項のまとめ>

①先進視察をふまえて重視すべき事項（資料1）

②保存整備・公開活用の基本方針の再検討と検討のための展開案（資料2）

<防災・減災プログラムと管理運営方式等>

③防災・減災教育プログラムの展開イメージ（資料3）

④施設の運営方法について（資料4）

⑤施設の位置付けおよび周辺連携について（資料5）

### 3 意見交換内容

【委員から出された主な意見】

<②保存整備・公開活用の展開案について>

➤ 本会議の合意事項として南校舎は遺すということをまずは確認したい。また、複数棟あるのも遺構として特色であり、北校舎等既存の建物を展示等で活用することには費用的な観点からも賛成したい。

➤ 北校舎についても、震災後無事残った部分、避難した人がいた所として遺構の価値があると思う。北校舎を含め遺すや改築をすることを早々に決めることはないのではと考える。従って、遺構の中に入れることを重視するのであれば、Ⅱ-2案に北校舎・総合実習棟も遺す案を検討されたい。

➤ 先進地視察で来訪者が年々減少となること、維持管理費がかなりかかること、現物をそのまま遺すことの大事さを感じた。総合的な視点で判断する必要があると思うが、壊れてしまえばこれっきりとなるため、考える時間を持つべきではと考える。

➤ 遺構の中に入れるかどうかについて中に入れることに賛成したい。また、展示等を行う附属施設も必要と思っているが、中のコンテンツは固定せず可変性のものにすべきである。

➤ 遺構についてはできるだけ遺した方がよいこと。現地に来て見ることの意義を高めるため遺構の中に入れることも大事である。また、南校舎屋上からは震災の状況が分かりやすくみえるので価値が高い。

<③防災・減災教育プログラムの展開イメージについて>

➤ 固定した展示を想定せず展示スペースだけ設け柔軟に対応できる施設作りを検討されたい。東日本大震災が見学者に自分たちの身にも起こりうると思わせるような展示を行い、その普及に力をいれるべきである。

- 語り部が大事な要素になると思われるが、実施に当たって、係る団体・部署である市教育委員会、観光課、観光協会が連携を強化する必要がある。また、ターゲットとして、企業及び自治体からの視察は増えているので意識してほしい。
- 津波のリアルな映像は市内でも正式に公開されていないため展示室にて是非公開してほしい。また、南校舎屋上等で津波の当時の映像を見ることは非常にインパクトがあると考えている。
- 遺構があるだけでは風化は止まらないので、展示等付属施設での見せ方の工夫は必要である。また、地域取組との連携については十分に検討されたい。
- 学校教育での防災教育として大事なことは、自分のいる所を愛することである。津波の歴史がある中なぜ離れないか？自然（海）と共に生きることを伝えることも必要である。
- 先進地視察でガイドの重要性を認識した。語り部には見学者に分かりやすい物語を語ってもらいたい。展示内容には何故この地域に住んでいるかなど地域との関わりを伝えてほしい。また、当時どのように逃げたのかを体験コース作りは有意義と考える。

#### <④施設の運営方法について>

- どんな施設にするかによるが、文化施設・研究施設にすべきと考えている。運営方式は市として伝えるべきことを明確・継続化するためには直営である必要がある。地域との連携の元、観光についても有機的に組み立てていくことも今後必要である。
- 雲仙岳の旧大野木場小学校も当時中に入れる話はあったが、維持費の問題で断念した経緯がある。維持費の負担軽減に向け、大学に研究施設として活用してもらうことを検討されたい。

以上